

3年言語と文学 (MYP 4 Language and literature) 【国語：3単位】

科目のねらい

- MYP言語と文学の指導と学習のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。
- ・言語を思考、創造性、振り返り、学習、自己表現、分析、および社会的な相互作用の手段として利用する。
 - ・さまざまな文脈で、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表することに関わるスキルを身につける。
 - ・文学および非文学のテキストを学習し分析することへの、批判的で創造的で個人的なアプローチを探究する。
 - ・歴史上のいろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。
 - ・文学および非文学のテキストを通して、自分の母国や現在住んでいる国の文化、その他の文化を探究し、分析する。
 - ・多様なメディアや伝達様式（モード）を通して言語を探究する。
 - ・生涯にわたる読書への関心を育む。
 - ・実際のさまざまな文脈において、言語的・文学的な概念とスキルを応用する。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A：分析	i) テキストの内容、文脈、言葉、構造、技法、スタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を分析する。
	ii) 作者の選択が、受け手に与える効果を分析する。
	iii) 例、説明、用語を用いて、意見や考えの理由を述べる。
	iv) ジャンルやテキストにおいて、または複数のジャンルやテキストにわたって、特徴を関連づけることで、類似点と相違点を評価する。
B：構成	i) 文脈と意図に応じた組織的構造を使用する。
	ii) 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
	iii) 執筆のフォーマットを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。
C：創作	i) 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究し批判的に振り返りながら、洞察、想像力、感受性を示すテキストを創作する。
	ii) 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
	iii) アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。
D：言語の使用	i) 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
	ii) 文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
	iii) 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
	iv) 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
	v) 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

※ねらい・目標・評価基準の記述は、IBO発行の「MYP Language and literature guide」に基づいています。

関連概念（言語と文学の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手側の受容	登場人物	文脈	ジャンル
テキスト間の関連性	視点	目的	自己表現
設定	構成	スタイル（文体）	テーマ

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. アイデンティティ 2. アイデンティティと関係性 3. 批判的思考スキル	「わかりやすさ」からの脱却～ 評論を読む～ 知識及び技能 第3学年(1)イ・ウ(2)ア 思考力・判断力・表現力等 A第3学年 イ・ウ C第3学年 ア・イ・ウ・エ 鷺田清一「それでも、言葉を」 山際寿一「作られた『物語』を超えて」	提言 「身の回りにある「物語」または「二項対立」が世の中に与えている影響を考察し、それに対する自分の意見を述べる」 【A】事例の構造を適切に分析して考察を深める。 【C】課題に対する取り組み方の工夫および思考の発展をプロセスジャーナルに記録する。 【D】適切な語彙や表現形式、文法を用いる。また、場面にふさわしく受け手を考慮した言葉遣いを使用する。さらに、言語以外のコミュニケーション手段を効果的に用いる。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-A ③主体的に学習に取り組む態度-C 2. A-3
	2	1. 変化 2. 空間的・時間的位置づけ 3. コミュニケーションスキル	言語と価値観 知識及び技能 第3学年(1)イ・エ(2)ア・イ(3)イ・ウ 思考力・判断力・表現力等 B第3学年 ア・イ・ウ・エ	記述試験 古語と現代語を比較し、言葉の変遷における日本人の価値観を論じる 【B】自分の考えに一貫性を持たせ、論理的に組み立てる。また、原稿用紙のフォーマットに適切に従い記述する。 【C】課題に対する取り組み方の工夫および思考の発展をプロセスジャーナルに記録する。 【D】適切な語彙や表現形式、文法を用いて記述する。エッセイに相応しい文章表現を用いて記述する。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-C 2. C-17
後期 (10月～3月)	3	1. ものの見方 2. 空間的・時間的位置づけ 3. コミュニケーションスキル	随筆と価値観 知識及び技能 第3学年(3)ア・イ・ウ 思考力・判断力・表現力等 B第3学年 ア・イ・ウ・エ C第3学年 ア・イ・ウ・エ 「新明解古典シリーズ『枕草子』」 「新明解古典シリーズ『徒然草』」	記述試験 探究の主題に対して『徒然草』を用いて自身の考えを論じる 【A】探究の主題に対して分析し、『徒然草』を用いて自分の考えと関連させて論じる。 【B】自分の考えに一貫性を持たせ、論理的に組み立てる。また、原稿用紙のフォーマットに適切に従い記述する。 【C】課題に対する取り組み方の工夫および思考の発展をプロセスジャーナルに記録する。	1. ①知識・技能-B ②思考・判断・表現-A ③主体的に学習に取り組む態度-C 2. C-17
	4	1. アイデンティティ 2. アイデンティティと関係性 3. 転移スキル	文学批評～葛藤～ 知識及び技能 第3学年(1)ア・イ・ウ 思考・判断・表現 B第3学年イ・ウ・エ・オ C第3学年ア・イ・ウ・エ 鲁迅「故郷」(教科書) ※以下から選択 森鷗外「舞姫」「高瀬舟」 芥川龍之介「羅生門」	記述試験 課題図書「葛藤」について分析し、主題との関わりを論じる 【A】「羅生門」「舞姫」「生まれ出づる悩み」の主題を立て、葛藤との繋がりを分析する。 【B】自分の考えに一貫性を持たせ、論理的に組み立てる。また、原稿用紙のフォーマットに適切に従い記述する。 【D】適切な語彙や表現形式、文法を用いて記述する。エッセイに相応しい文章表現を用いて記述する。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-A 2. D-22
	5	1. つながり 2. 文脈 3. 転移	漢文 知識及び技能 第3学年(1)イ(3)ア・イ・ウ・エ 思考・判断・表現 第3学年B(1)ア・ウ(2)イ 「助長」「蛇足」他	故事成語の紹介 「故事成語を書写し、調べたこととそれについての考察を紹介する」 このUnitは評価の対象ではありません。	1. ①知識・技能-なし ②思考・判断・表現-なし ③主体的に学習に取り組む態度-なし D-17

※【知識及び技能】(1)語彙・漢字・言葉遣い(2)情報(3)書写・読書の内容については、上記に示されていない場合も適宜取り扱う。